

フォスタリングチェンジ・プログラムの
ファシリテーター養成を通じた里親支援の強化

報告書

～ 事例紹介 ～

一般社団法人 無憂樹

目次

1. 事例紹介	-----	3
2. 第1回フォローアップミーティング	-----	8
3. 第2回フォローアップミーティング	-----	9
4. 第3回フォローアップミーティング	-----	10
5. 第4回フォローアップミーティング	-----	11
6. コンサルテーションデイ	-----	12

1. 事例紹介

2020 年度に報告された FCP 実施事例から、FCP 標準版実施・FCP 思春期版実施・FCP 体験版実施にわけて、様々な工夫がなされた事例を以下に紹介する。2020 年度は、コロナ禍での実施の難しさに各機関が直面したため、新型コロナ対策・対応の工夫を行った事例が中心となっている。

— FCP 標準版の実施 —

1) フォスタリングチェンジ Team くまもと（熊本県）

- ・ 養育里親 3 名、養子縁組里親 3 名の計 6 名の参加で実施。
- ・ 新型コロナウイルス感染予防のガイドラインを独自に定めることから始め、開催にあたってソーシャルディスタンス等に配慮した会場レイアウトにより実施。体調管理、出席等についても事前の訪問時に説明を行い参加者の同意を得て行った。
- ・ プログラムのなかでは、参加者 6 名の方に委託されている子どもの年齢が近かったこともあり、それぞれが抱える悩みに共通する部分が多くみられた。
- ・ 新型コロナウイルス感染予防のため、距離をとるための机の設置やアクリル板をはさんでのディスカッションやロールプレイ、おやつや筆記具等の個別の準備など安心して参加できるよう、心掛けた。
- ・ また、飲食の取り扱い方や参加者同士の距離をとったことにより参加者同士の親和性を高めることに時間が掛かったため、意図的にディスカッションの時間、話題を提供。欠席者の補講については、Zoom を使い可能な限り実施。
- ・ 感染予防に重きを置き、これまでの形式から会場レイアウトやロールプレイの在り方など変更した点があった。これまでの実施と比較をすると様々な点（参加里親によるピア SV、ロールプレイなど）で難しさを感じる場所があった。

2) 広島県西部こども家庭センター・広島市児童相談所（広島県）

- ・ 参加里親 5 名で、養育年数は、0 カ月から 7 年と差があったが、参加者のプログラム参加への意欲が高く、回を重ねるごとにそれぞれの個性や養育観を相互に認め合い励まし合う温かな雰囲気がつくられていった。またその中で、自主的・主体的に気づきや意見を出し合い、考え合うことが増えていき、その後につながる関りがつくられたと思われる。
- ・ 県・市の共催、施設が協力という形で実施したのがユニークなポイント。

- ・ 以下のようなコロナ感染予防対策を行った
 - 広さがある講堂での実施
 - 到着時の検温、手指消毒、会場常時換気、サーキュレーターの使用
 - おやつを一緒に食べる時間を大事にしたい、個包装のお菓子を各自の椅子で食べるようにした
- ・ 未就園児の里親さんが参加できるよう保育体制を確保した。また、未就園児は、出席シールを貼ってから保育会場にむかうようにし、子どものための修了式も実施。
- ・ FCP を実施してみて、それぞれの参加者がプログラムで学んだことを、自分の子ども、その年齢にあわせて工夫して実践したという印象を得た。

3) 福岡市こども総合相談センター（福岡県）

- ・ 2020年2月に受講生の募集を開始し、3月に6名決定。4月に家庭訪問、5月～7月にプログラム実施の予定としていたが、新型コロナウイルスの感染拡大また緊急事態宣言を受けて、9月開始に延期。8月に全家庭への家庭訪問を行い、9月にプログラム開始。12月まですべてのセッションを行うことができるが心配されたが、無事に6名全員が修了できた。
- ・ プログラム中、新型コロナウイルス感染予防として以下の点を配慮した。
 - 自宅での検温のお願い、また入室時の検温と手指消毒
 - マウスシールドの着用
 - できるだけ間隔を空けて座る、部屋の外にお茶コーナーを設ける
 - ロールプレイや休憩の時には密にならないように声かけ
 - マジックやバインダーなどは共有しないように個別に準備
 - 里親さんご自身や同居する家族に発熱や風邪の症状など体調不良がある場合には参加を控えていただく
- ・ 対象児が全員未就学児ということもあり、受講生同士共通の話題も多くグループづくりはスムーズにできた。
- ・ プログラム実施前からほめることやご褒美、一緒に遊ぶこと、読書などは取り入れられている方が多かったが、改めてスキルとして学び実践することで子どもの反応の変化が見られていた。
- ・ 後半のセッションに進むにつれて問題行動が徐々に改善され、とりあげる問題行動が浮かばないという方も多く、肯定的なしつけの部分は予防的な意味で学ばれる方が多かった。「（タイムアウトの）説明をただけで効果があった」「指示の出し方を変えることで行動が改善された」と、いうフィードバックもあり、幼児期の子どもに実践することの効果を実感した。（思春期版を実施したときの受講生の反応と大きく異なる。）

- ・ 事前の家庭訪問や、欠席された方に家庭訪問による補講を行ったことで、よい刺激となり参加意欲を高めることができた。

4) 興正学園（北海道）

- ・ 参加者 7 名（男性 2 名・女性 5 名）で実施。
- ・ 事前訪問では、独自の質問を複数加えた。例えば、コロナ禍での過ごし方についての質問を行ったが、これは、緊急事態だからこそ、これまでの里親家族の関わり方・価値観を知る機会のひとつであると考えたため。
- ・ 過去 2 年間は、里親支援専門相談員が、支援関係において FCP への参加が有効そうな里親さんに参加を促していたが、2020 年度初めて参加者を公募した。結果として、様々な動機をもつ個性豊かなメンバーが揃った。昨年度までと比べても、グループを進行していく上で大きな違和感はなかった。
- ・ コロナ対策として、以下を行った結果、支障なく、参加者にも安心してもらいながら実施出来た。
 - 検温と手指消毒の実施。マスク必須
 - 参加者同士の距離を 1m 以上あけて座る
 - 参加者の荷物同士がふれあわないように置く位置を指定
 - 会場内に除菌噴霧器を 2 台設置
 - ファシリテーターは、防護めがねと手袋を装着
 - ロールプレイはフェイスガードを使用
 - 共有でおもちゃやペンを使用するときは、都度手指消毒
 - 参加者のお菓子や飲み物はすべて個別化
- ・ 参加者の多くが、子育てを通じた里親としてのあり方に改めて触れ、自身の課題に気づく体験をされた。セッション終了時には養育スキルや知識の向上に加え、家庭環境や職場環境を自分のスタイルにより合うものへと変化させたり、これまで躊躇していたことにチャレンジするなど、メンバーの行動変化を目の当たりにし、FCP の新たな可能性を感じた。

— FCP 思春期版（12+）の実施 —

5) 二葉乳児院（東京都）

- ・ これまで通常版を3回実施、2020年度に初めて12+を実施した。
- ・ 初めての12+だったため、事前にファシリテーターの中で、12+の追加分について特に念入りに確認をしたり、資料の読み込み・理解のための準備に時間をかけながら実施した。
- ・ 養育里親6名、ファミリーホーム2名の計8名が参加。うち、3家庭がFCP通常版受講者だった。通常版受講済みの参加者がいたことでの強みが発揮された。
- ・ セッションの振り返りとして、翌週に要点をまとめたプリントを参加者に配布した。
- ・ 分かりにくい言葉は、A3サイズにラミネートして壁に貼るなどの工夫をした。
- ・ タイムスケジュールを自分たちで作成し、それを目安に進めた
- ・ 通常版に比べて、目を見張るような子どもの変化は見えにくいですが、一方で、里親さんの変化が、言葉ややりとりから見えてきた。今までガミガミ言っていたが、待つことで子どもが話かけてくるタイミングが増えた、という里親さんや、目の前の課題だけに目を向けるのではなく、その子らしさの良いところが見つけられて褒められるようになった里親さんなど。
- ・ オブザーバーを入れるのは、グループがまとまる4回目以降にした。
- ・ コロナ対策として、以下を実施。
 - 講習日3日前より毎回検温表に記入
 - コロナに関する質問表に記載の上参加してもらう
 - 当日の検温、手洗い、アルコール消毒等
 - 会場や備品の消毒等対策
 - 休憩時間のお菓子（個包装）を個別に分けて配布

— FCP 体験会の実施 —

6) 里親普及促進センターみやざき（宮崎県）

- ・ 2020 年度の FCP は実施が困難な状況（受講者が定員に満たないこと、コロナ禍での実施の難しさ等）であったため、フォスタリング機関として、周知活動として体験版を実施。150 分間の体験版講座を、5 回実施した。
- ・ 体験版の目的：里親登録研修（法定研修）の科目に追加し、今後登録する方が FCP に関心をもって登録を行い、委託の際には、受講するよう意識付けを行うこと。また、里親更新研修の科目に追加し、現在養育中の方や今後委託を待つ未委託の里親に対し、FCP を体験してもらい、関心を持つきっかけとする。さらに、里親及び支援者を対象としたスキルアップ研修に FCP を取り入れ、里親が FCP への関心を持つきっかけとする。また支援者（児相や施設）に対しても FCP の理解を深め、チームでの実施体制の構築に繋げる。
- ・ 体験版実施の結果、関心を持って参加された方が多く、FCP を知ってもらうきっかけとなった。
- ・ 来年度以降、参加人数が少なくても、FCP の実施を実現していきたいと考えている。

<受講者の声>

- グループワークが楽しく、実体験も振り返りながら学ぶことでスムーズに頭に入ってきた。また、誰かに頼ることも大切だと感じた。
- グループワークで他の方の意見も聞くことができ大変参考になった。
- 褒めること、子どもと一緒に遊ぶことの大切さを再確認した。
- 今の子育て（実子）にも当てはまることが多く、委託があったらぜひ受けたいと思った。
- ロールプレイがありとても分かりやすかった。フォスタリングチェンジプログラムを全部受けてみたいと思った。
- アテンディングでは「質問する」、「教える」をついついやってしまいがちだけど、ロールプレイや解説を聞くことでとても納得できた。これから気を付けようと思った。
- 子どもに対する接し方を振り返るきっかけになった。明瞭に伝えることは大切だと思った。
- 悩みを他の里親さんと共有することは大切だと思った。気持ちが楽になった。

2. 第1回フォローアップミーティング

1、開催日時 2020年8月4日(火) 10:00~16:00

2、開催方法 Zoom オンライン

3、出席者

a スーパーバイザー:

・松崎 佳子 先生

(福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長 広島国際大学 特任教授)

・上鹿渡 和宏 先生

(早稲田大学 人間科学 学術院 教授 / 児童精神科医)

b 運営:一般社団法人無憂樹 上村宏樹 榎田 綾子 岡崎美幸

c 参加者 17名

4、内容

1. 開会・自己紹介 (1分程度)
2. 実践報告 (発表15分 コメント10分)
3. 進捗状況報告 (発表10分 コメント5分)
4. 質疑応答 15:30~15:45
5. 事務局連絡・その他閉会 15:45~16:00

5、総括

10都道府県が、実践・進捗状況報告を行い、参加者同士、及びアドバイザーとの間での、活発な意見交換・質疑応答がなされた。

特に、フォローアップセッションをどの程度継続すべきか、コロナ対策について、控えめな里親さんへの対応等についての質問と助言が多くなされた。また、体験会を行った機関に対して、他機関から質問が出るなど、コロナ禍で通常のFCP実施が難しい中、工夫してどのような取組みが推進できるかを模索しているファシリテーターの姿が感じられた。

さらに、思春期版への質問なども出され、思春期版への関心の高さもうかがえた。

コロナ禍でも開催できるオンライン実施の可能性を感じると共に、コロナがあけて対面実施が可能になった際にも、この経験をもとに、オンラインと対面の双方の良さを生かした取組みを検討していきたいと感じた。

3. 第2回フォローアップミーティング

1. 開催日時 2020年10月6日(火) 10:00-14:30
2. 開催方法 オンライン (Zoom)
3. 出席者
 - a) スーパーバイザー：
 - ・松崎 佳子 先生
(福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長 広島国際大学
特任教授)
 - ・上鹿渡 和宏 先生
(早稲田大学 人間科学 学術院 教授 / 児童精神科医)
 - b) 運営：一般社団法人無憂樹 上村 宏樹、岡崎 美幸
 - c) 日本財団：福田 様
 - d) 参加者：ファシリテーター4名
4. 内容
 - 1) あいさつ 自己紹介
 - 2) 実践報告・進捗状況報告
 - 3) 質疑応答
 - 4) 事務局連絡・その他 閉会
5. 総括

3 県が、実践・進捗状況報告を行い、参加者同士、及びアドバイザーとの間で、質疑応答、意見交換がなされた。

今回は参加者数が少なかったため、予定より早い閉会となったが、じっくりと議論をすることができた。

やはりコロナ禍での実施に苦慮している地域が多く、コロナ対策についての議論が多くされた。また、コロナにより途中で対面実施が難しくなった場合のオンライン実施の可能性について、議論された。現場での取り組みへのコロナの影響度合いを改めて実感すると共に、(松崎先生がコメントされたように) ただでは転ばない頼もしさが参加ファシリテーターの方々から伝わってきた。一方、これが長期化すると、ファシリテーターのモチベーション維持も厳しくなりかねないため、そこをサポート・エンパワーする役割を事務局やピア(ファシリテーター間) であっていくことが重要と認識。

4. 第3回フォローアップミーティング

1. 開催日時 2020年12月1日(火) 10:00-16:00
2. 開催方法 オンライン (Zoom)
3. 出席者
 - e) スーパーバイザー：
 - ・松崎 佳子 先生
(福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長 広島国際大学
特任教授)
 - ・上鹿渡 和宏 先生
(早稲田大学 人間科学 学術院 教授 / 児童精神科医)
 - f) 運営：一般社団法人無憂樹 上村 宏樹、岡崎 美幸
 - g) 参加者：13名 (7都道府県)
4. 内容
 - 1) あいさつ 自己紹介
 - 2) 実践報告・進捗状況報告
 - 3) 質疑応答
 - 4) 事務局連絡・その他 閉会
5. 総括

7都道府県が、実践・進捗状況報告を行い、参加者同士、及びアドバイザーとの間で、質疑応答、意見交換がなされた。

前回同様、コロナ対策関連の議論が多くされた。一方で、コロナ禍で一部オンライン化を試みる中で、zoomのより効果的な活用方法など、よりよい実践に向けた前向きな議論が多くなっているように感じられた。また、里親さんとオンラインでコミュニケーションがとることが可能になり、忙しい中でも遠方の里親さんのフォローがしやすくなる等、コロナ禍で必要に迫られて行った変化から生まれてくる利点についても、目が向けられた。

5. 第4回フォローアップミーティング

1. 開催日時 2021年1月19日(火) 10:00-16:00
2. 開催方法 オンライン (Zoom)
3. 出席者
 - h) スーパーバイザー：
 - ・松崎 佳子 先生
(福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長 広島国際大学
特任教授)
 - ・上鹿渡 和宏 先生
(早稲田大学 人間科学 学術院 教授 / 児童精神科医)
 - i) 運営：一般社団法人無憂樹 上村 宏樹、岡崎 美幸
 - j) 参加者：16名
4. 内容
 - 1) あいさつ 自己紹介
 - 2) 実践報告・進捗状況報告
 - 3) 質疑応答
 - 4) 事務局連絡・その他 閉会

5. 総括

3県(宮崎、熊本、福岡)から実践報告が、7都府県(大阪・東京・広島・鹿児島・長野・茨城・千葉)から、状況報告が行われ、参加者同士、及びアドバイザーとの間で、質疑応答、意見交換がなされた。

今回は参加者数・参加地域数が多かった中で、様々な地域固有の事情が見える中で、共通するエッセンスを学び合う様子がうかがえた。

特に、コロナ禍で、なかなか思うように実践が進まない地域も、工夫して実践されている地域から学びを得たり、将来の実施に向けて行える準備について助言を得たりしながら、励ましを受けた。

オンラインでは集中力を保つのが難しい中、発表チーム数も多かったため、適度に休憩を入れるなどの工夫をしながら、終日のセミナーに参加者がエネルギーをもって参加できるよう、留意した。

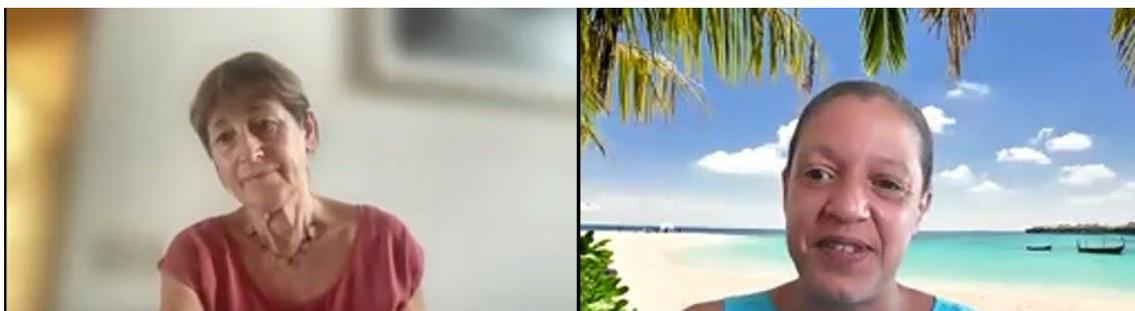
6. コンサルテーションデイ

1. 開催日時 2021年7月20日(火) 17:00-20:30
2. 開催方法 オンライン (Zoom)
3. 出席者
 - k) 講師：
 - ・キャシー・ブラッケビー氏 (Kathy Blackeby) ※FCP 開発者
 - ・キャロライン・ベンゴ氏 (Caroline Bengo) ※FCP 開発者
 - l) スーパーバイザー：
 - ・松崎 佳子 先生
(福岡市子ども家庭支援センター「SOS 子どもの村」センター長 広島国際大学
特任教授)
 - ・上鹿渡 和宏 先生
(早稲田大学 人間科学 学術院 教授 / 児童精神科医)
 - m) 通訳：徳永 祥子 様
 - n) オブザーバー： 日本財団 長谷川 愛 様
 - o) 運営：一般社団法人無憂樹 上村 宏樹、田口 陽子
 - p) 参加者：44 名
4. 内容
 - 1) 開会 あいさつ
 - 2) FCP 標準版 コンサルテーション
北海道 社会福祉法人常徳会 児童養護施設 興正学園
 - 3) FCP 思春期版 (12+) コンサルテーション
東京都 社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院
 - 4) 質疑応答
 - 5) 事務局連絡・その他 閉会

5. 実施のまとめ、及び総括

2018年までは、年に1回キャシー・キャロライン両氏を日本に招いて開催してきたが、2019年3月には、開催直前に新型コロナウイルスの感染拡大により、開催を見送らざるを得ない事態となった。コロナ終息の見通しがたたない中で、FCPの手法のみならず、その背景にある理念や思想を含めて、開発者自身からのコンサルテーションで得られる豊かな学びの機会をなんとか実現できないかと思案し、今回、初めてオンラインでの開催を決定した。

2年半ぶりの開催となる今回のコンサルテーション日には、日本全国から44名のファシリテーターの方々が参加され、FCP通常版と、FCP思春期版(12+)について、それぞれの実践についてフォスタリング機関から発表していただき、キャシー氏・キャロライン氏からコメントや助言をいただいた。



Zoomで参加した講師のキャシー・ブラッケビイ氏(左)とキャロライン・ベンゴ氏(右)

FCP通常版については、北海道の児童養護施設興正学園(社会福祉法人常徳会)の小野実佐さんから発表をいただいた。キャシー氏からは、コロナ禍で家庭訪問での質問項目を工夫されたことなどを例にあげ、とても丁寧な準備をしたことにより、とても高いレベルでの実践ができていると、絶賛の第一声があった。また、ファシリテーターが、子どもの変化だけでなく、里親さんの変化に目を向けながら気づきを得ていたこともとても素晴らしい、と話されていた。キャロライン氏からも、様々な里親さんが参加されたことにより、より丁寧な準備が必要となったが、多様性の中で参加者の気づきが多く深いものになったのだろうというコメントがあった。

FCP思春期版(以下12+)の実践は、東京の二葉乳児院(社会福祉法人二葉保育園)の長田淳子さんが発表された。二葉乳児院では、過去に3回のFCP通常版を実施しているが、12+は昨年度初めての実施となり、初回ならではの大変さ、そして感じた手ごたえが伝わってきた。キャロライン氏は、12+を行うのは、普通の時期であっても大きな挑戦である中で、コロナ禍で初めて実践をしたというチャレンジは、尊敬に値するとコメントされた。また、キャシー氏は、標準版と比べても12+は難しいプログラムであり、その難しさを理解してくれたこと自体が素晴らしいし、その難易度の高いプログラムを、高いファシリテーションスキルで実践されていた、と語った。特に、里親さんたちのアイデアを尊重し、応援したファシリテーターの姿勢が、里親さんのエンパワメントにつながる大事なあり方であると、称賛されていた。

上述の2つの機関に加え、事前に参加者のファシリテーターからいただいた質問をキャシー・キャロライン両氏に投げかける時間をもうけた。スキルの実践になかなか前向きに取り組めない里親さんへの対応についての相談に対しては、キャシーから、「FCPに参加してみるということ自体が、里親さんが前向きに挑戦しているという証拠であり、それ自体が素晴らしい。まずはそれを認めてあげること、そして、どんなにネガティブな感情があったとしても、それを聴いて受けとめることが大事。」といったアドバイスがされた。

また、FCP で学んだスキルを実践してもすぐに効果が出ない里親さんに対しては、子どもによって効果が出るまでの時間も様々なため、諦めずに試し続けるよう、ファシリテーターが励まし続けることが大事、という助言もあった。同時に、FCP のグループの中だけでは、対応に限界がある場合もあることも触れられ、場合によっては、グループの外で、里親さんと個別の対話をしながら寄り添うことの重要性も語られた。

キャシー氏・キャロライン氏の一つ一つのコメントに、FCP の理念がじんわり表れており、改めて FCP の意義を感じる時間になった。

参加者からも、事後アンケートで多くのポジティブなコメントをいただいたので、一部を以下に掲載する。

- みなさんの実践をうかがって励まされました。また、キャシーとキャロラインのことばひとつひとつがとてもあたたかく肯定的で、私もファシリテーターとして里親さんへキャシーとキャロラインのような言葉かけをできるようにしたいです。
- キャロラインとキャシー、それぞれのコメントを聞き、養成講座でのお二人の温かい雰囲気思い出しました。また、FCP の基本的な価値と信念について再確認できました。
- キャシーとキャロラインから温かいメッセージをいただき、やる気のパワーをもらえました。不安な中、FCP を進めていましたが、他県も同じように取り組んでいること、自分たちのやり方も間違っていなかったということが分かり、少しほっとしました。
- 実践をこの秋に控えて、皆さんがどのようなことで困っていらっしゃるのか聞くことができて良かったです。基本は里親の話聞くことに尽きる、という視点は、FCP だけでなく普段の里親支援にも必要な、基本に立ち返る視点で、気付かされるが多かったです。
- 初めての参加でドキドキワクワクでした。想像以上に素晴らしいコンサルテーションで、私たちも今後開催予定ですので、是非、参考にしていきたいと強く感じました。